

第6回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

< フリートーク型 立花地区にお住まいのみなさまと >

対話録概要

と き	令和6年8月5日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで
と ころ	立花南生涯学習プラザ 1階フリースペース
出席者	参加者 14人、市長ほか関係者 8人 計22人

【市長のあいさつ】

車座集会は参加者やテーマを特定し開催するものや、公募により可能な限り自由なテーマで開催するものがある。昨年度は前者の手法により4回開催したが、今年度は後者の手法により各地域で開催していくこととしており、立花地区がその1回目である。「対話重視」を自分自身の政治理念に掲げており、本日は皆さんから多様な意見をもらい、市政運営の改善へとつなげていければと思う。

【意見交換】

<参加者>障害を持つ子と持たない子がともに学校生活を送っていけるような枠組みが必要である。自分自身、特別支援学級の担任をさせてもらっている経験の中で、こうした枠組みの必要性を感じている。

<参加者>分け隔てることのないインクルーシブ教育の推進は国際的に推進していこうという状況である一方で、学校現場の負担増の懸念などから、進みにくい実態もある。国際的な流れとは逆で分離教育に進んでいる自治体もあり、学校長次第な気がする。

<参加者>支援学校と支援学級がある。支援学校に通っている子ども地域祭りの祭りと支援学校と通常学校間の交流は可能であると思う。また、支援学級の子と通常学級の子の交流についても授業のやり方の工夫などにより可能であると思う。

<市長>支援学校は尼崎市ではあまよう特別支援学校である。肢体不自由の子が多く通っているが、知的と身体どちらにも障害がある子もあり、重度な子も一定数通っている。また、支援学級に通っている子は、支援学校に通う子どもよりも比較的軽度の障害であるケースが多いが、やはり中には重度の子もいる。

私自身の公約で「インクルーシブ教育の推進」を掲げているが、大切にしたいのは、しっかりと入学前から丁寧にコミュニケーションを行うことである。本人の心身の状況や保護者のニーズを丁寧に聞き取り、可能な限りニーズに応えたいと思っている。そのため、障害のある子とそうでない子を必ず「一緒に」、あるいは「別々に」というのは極論であって、当事者に寄り添った対応が必要であると思う。そうした中で、今はバリアフリー環境を整えるためにも学校におけるエレベーターの設置に順次取り組んでいる。また、障害のある子を受け入れるときには特別支援教育支援員や生活介助員を配置するなど、本人や保護者の教育的ニーズに少しでも応えられるよう市も取り組んでいる。ただし、現場の実態としては、まだまだ課題もあることは理解しており、少しずつでも課題解決に向けて取り組んでいきたい。

<参加者>特別支援教育の現場の実態として、昨今の支援学級には軽度も含め20～30人もの児童が在籍

- している。例えば、軽度の子は通常学級で学習するようにするなど柔軟な運用ができればと思う。
- 〈市長〉学力的課題と共生的課題があると思っている。尼崎市はかつて、全国の学力テストの平均点より 10 ポイント程度下回っていた実態がある。しかし、今では、平均を上回るほどにまで改善されている。自分自身が教育長を務めていたときも学力向上に向けたプレッシャーはあった。しかし、学校における共生も大きな課題であり、私自身、共生社会に向けた教育も大事に思っている。
- 〈参加者〉学校給食で栄養を賄っている家庭もあり、学校の給食で栄養価の高い安全なものを提供して欲しい。また、学校給食で有機野菜や有機米を食材に取り入れ、子どもたちの免疫力を高めることで健康な身体づくりに期待ができる。また、こうした食事は正常体温をキープする効果も確認されており、正常体温の維持は学習面にも効果があるとされている。
- 〈市長〉給食で有機農法により育てられた食材を取り入れている自治体は徐々に増えてきている。尼崎市にも有機農業を一生懸命進めている会社があり、広めていきたいと思う一方、生産量を確保する観点から有機農法を維持していくのは大変である。そのため、毎日の給食で有機食材を取り入れるのではなく、月に数日など可能な範囲で取り入れていけたら良いと思う。
- 〈参加者〉男女協働参画計画にはジェンダー平等がうたわれている。条例の基本理念には、「男女が社会の対等な構成員として」と記載されているが、男女格差を解消することや女性不平等に関する是正が盛り込まれていない。女性差別、格差解消に向けて、ジェンダー平等という背骨を必ず入れてもらいたい。
- 〈参加者〉女性センターの貸館機能のみを図書館との複合施設に持たせるという話がある。官民連携手法により整備していくと聞いているが、市民の意見を言える機会があるのかが不安である。女性センターを昔から利用してきたこともあり、ジェンダー平等について平時から意識したり、関連する行事などにも出席してきた。一利用者として同センターには愛着を持っており、機能を切り離すことについては、女性グループとしての活動に対しマイナス要因となることを危惧している。ここまで、同センター利用者としての意見が再配置の案に反映されていないことが疑問に感じる。
- 〈参加者〉建物を建設、老朽化による修繕をするには税金が投入されている。そうした中で、利用者の意見のみが尊重されることは反対である。もちろん利用者の意見は尊重すべきであるものの、それが全てではない。これまで市は多様な意見に耳を傾けてきたであろうし、現在の市の案である女性センターの貸館機能を図書館との複合施設に持たせても、自分自身は問題ないと思っている。自分が問題視することは、女性センターの相談業務を指定管理業者が行っていることである。相談に来る市民は虐待や DV など深刻な悩みを抱えている人が多いと思う。そうした中で、福祉部門等と密に連携を図りながら支援にあたるなど直営での相談業務の実施を望む。
- 〈参加者〉タウンミーティングがあると聞いているが、計画があるから再配置の計画は変えられないといった結論ありきであれば嫌である。
- 〈市長〉女性センターと北図書館はいずれも古い建物である。尼崎市の図書館事情は近隣市より冊数も少なく、図書環境にも課題がある。こうした前提や課題認識のもと再配置を進めていく考えである。令和 7 年度には基本計画、令和 8 年度には事業者選定し、その後建設工事を経て、令和 11 年度の開館を目指している。新女性センターをどこに建設するかという点についてはこれまでも議論があり、今決まっていることは長年親しまれてきた武庫之荘地域に建設しようということだけである。女性センターや図書館の再配置に関しては基本的な方向性は持っているものの、いろんな

意見やそれを踏まえた議論は必要であると考えている。また、女性だけを焦点に当てるのではなく、多様な性の問題に対応する施設とすることも視野に入れているが、いずれにしてもこれから決めていきたい。

〈参加者〉ソフト面に関して、DV されている本人はなかなか相談に行くことすらできていない人もいると思う。そうした中で、例えば、市の税務や国保といった市民と接する部署の職員が、いかに本人の状況を把握し、相談や支援に繋げるということが大切であると思う。市で支えることができるよう研修なども充実してもらえたらと思う。

〈参加者〉デイサービスを利用する認知症高齢者等の社会参加活動については様々なものがあるし、本人の希望も多様である。こうしたニーズに対応するために、通所介護施設における多様な活動が認められるかを以前、市に確認したところ実現は難しいという回答を得た。市は同じ施設の中で活動する場合であっても1階と2階に分かれているのであれば、2単位として活動をしており、職員を倍にしないといけないという見解であった。いろんな業界で人手不足が課題となっている中、高齢者の労働意欲などに応えてもらえるよう行政には配慮してもらいたい。

〈市長〉どこまでのことができるのかは、こちらでもきちんと整理するが、ご指摘の点については共感できる。高齢者の社会参加は生きがいやフレイル予防にも繋がると思っており、高齢者が活躍できる環境づくりに取り組んでいきたい。

〈参加者〉市のホームページや SNS の活用については改善の余地があると思う。ホームページに掲載されているリンク先が非公開になっていることもあり、予算をかけなくても改善は可能な部分はある。

〈参加者〉立花かいわい会に参加させてもらっている。就職と同時に尼崎市に来て、地域との繋がりがなかった自分にとって、かいわい会は有難い存在である。地域で1人の市民として安心して暮らすことができる環境を提供してもらえ、その魅力を皆さんにも共有したいという思いを持って本日参加した。かいわい会では、「いろんな意見や考え方があるので、相手を否定しない」というルールがある。お互いを尊重し、コミュニケーションをしながら折り合いをつけたり、一緒に考え、ともに解決に向けて行動するなど、非常に尊い場である。

【おわりに】

〈市長〉教育や給食、女性センター、高齢者等認知症の方の活躍の場などいろんな話があった。車座集会で意見を交換して満足とは思っておらず、市役所の仕事に反映していくことが大切である。運用の改善や政策にも反映できるよう努めていく。

以 上